

ザリガニ連続捕獲装置の使い方

NPO 法人シナイモツゴ郷の会

高橋 清孝・長谷川政智・内藤朝陽

1. アメリカザリガニ連続捕獲装置の開発

大崎市里山のため池ではシナイモツゴやゼニタナゴなど豊かな自然を守るため、アメリカザリガニの防除と取り組んでいます。捕獲作業を効率化するため2016年に自動給餌機を備えた連続捕獲装置を開発し、1週間に一度の作業で1台あたり50～200頭の捕獲回収が可能になりました。約20aのため池に5～6台設置し毎月2～4回捕獲回収することにより、1年後には雌雄成体の生息密度を捕獲開始前の1/5程度に減少させることができました。

2019年には、この装置をさらに簡単化して、捕獲効率を維持しながら作業効率を高めると同時にコストダウンを図るため、自動給餌機を使用しない連続捕獲装置を開発しました(図1)。これにより、アメリカザリガニをだれでも長期にわたり効率良く捕獲できるようになりました。

図1 簡易な新型連続捕獲装置を開発(2019年)

ザリガニ侵入口

明室:小型のアナゴカゴを連結

暗室:遮光ネットやプラスチックネットをかぶせ内部を暗くしています。最大250頭程度を収容するため、太い網地の大型アナゴカゴを使用しています。

ザリガニ取り出し口:設置時に隙間ができないようにヒモで厳重に結束します。

餌を入れたタッパーウェア2～3個、穴の大きさと数を変えて1週間程度、餌が残るようにしています。

餌はドッグフードかコイの養殖餌。タッパーウェア1個に100g程度を入れます。容器が暗室へ移動しないように、3個まとめて明室上部のフックに固定します。

操作が簡単、メンテナンスフリー、1週間に1回の作業で大量捕獲。大崎市里山のため池では地域住民主体にアメリカザリガニ30～200頭/基を捕獲。

2. 連続捕獲装置マニュアル：誘引餌、給餌、設置、回収

誘引餌

①ドッグフード：8kg入、1袋1,000円程度、粒径の大きなものを使う。生魚と同等の効果有。油膜の発生を少なくするため、油分の少ない高齢犬用を使う。
 ②コイ養殖餌：さらに、油膜の発生を低減するにはコイ養殖餌（越冬用、油脂添加なし、20kg袋で送料込み6,000円程度）を使用する。



コイ養殖餌(マルイ産業)
 育成用34
 3P 4P 6P

粗タンパク質34%以上の低タンパク飼料。越冬用に。

給餌容器の餌の量と設置：異なる大きさの穴を開けたタッパーウェア3個(下図A)に配合飼料を入れ(下図B)、明室のフックに固定する(下図C)。給餌量は生息密度と水温条件により、回収時の残餌量を見て調節する。給餌例(25℃以上の高水温時) ①500ccタッパー、直径4mmの穴18個、ドッグフード100g・240cc、②500ccタッパー、直径4mmの穴9個、ドッグフード100g・240cc、③300ccタッパー、直径2mmの穴9個、ドッグフード70g・180cc

A: 穴あきタッパー
 ウェア 3個



B: タッパーウェアに
 餌を入れる。



C: 餌を入れたタッパーウェア
 を明室のフックに固定する。



連続捕獲装置の設置



30m



設置方法：捕獲装置をロープで岸辺に固定する。装置の消失を防止するため、浮標を取り付けた方がよい。

水深1m前後に設置の場合

固定用ロープ：水深40cm以深の水域へ投入し、トラックロープなどで岸辺に固定する。岸辺の陸上ではイタチなどによって切断されることがあるので、樹木などから直接水面へ垂下する。直径8mm、30m 1巻 2,000円程度

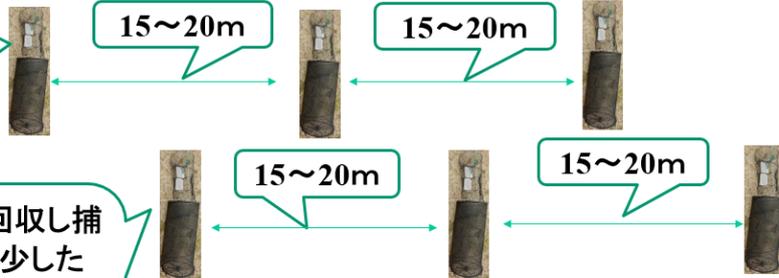


ペットボトル浮標：固定ロープの切断などによる消失を防止します。固定用ロープはイタチなど小動物により切断されることがあります。切断後、水底に傾斜があると回転して深みへ移動し探しにくくなることがあります。ペットボトル0.5~2Lの空容器を直径3mm程度のロープ2~4mを捕獲装置に取り付ける。ロープはブレードロープ(黒3mm、330m)が使いやすい。1巻 1,500円

設置間隔と再設置

設置間隔: 地形、障害物、生息密度などにより異なるが15~20mを目安として設置する。週1回、1か月間に計4回程度回収し、大型個体の捕獲数が減少したら、下図のように捕獲装置を2つの装置の間中点へ移動し再設置します。アメリカザリガニの捕獲数は設置後、1~3週目に最大になることが多いので、装置を移動する場合は4週に1回程度を目安とします。

初回の
設置位置



4回程度回収し捕獲数が減少したら、2つの装置の間中点へ移動設置する。

アメリカザリガニの回収



設置後回収までの期間: 設置後7日間をめどに回収する。

回収方法: 暗室の取り出し口を開放し(写真①)、ザリガニをトレイ等の容器へふるい落とす(写真②)。



回収後は取り出し口を隙間ができないよう(↓)嚴重に結束する(写真③)。

本装置は特許を取得しており、無許可で複製しないでください。また、使用に際しては都道府県の特別採捕許可を得る必要があります。